

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 23 年 4 月 7 日 (2011.4.7)

【公表番号】特表 2010-507856 (P2010-507856A)
 【公表日】平成 22 年 3 月 11 日 (2010.3.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2010-010
 【出願番号】特願 2009-533936 (P2009-533936)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 17/30 (2006.01)

G 0 6 F 21/20 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/30 3 5 0 C

G 0 6 F 17/30 1 7 0 B

G 0 6 F 15/00 3 3 0 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 23 年 2 月 21 日 (2011.2.21)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

サンプルレコードと、複数の記憶されているレコードとの間で可能性ある一致を識別する方法において、

(a) 前記記憶されているレコードのそれぞれから複数の特性を抽出し、前記特性は、特性空間内に含まれていることと、

(b) それぞれの一意的な特性に対して、関係付けられているレコード出現リストを維持し、前記レコード出現リストは、前記特性と、前記特性空間内の前記特性に対する規定された近接性内の特性とが抽出されているレコードを識別することと、

(c) サンプルレコードからサンプル特性を抽出することと、

(d) 所定の記憶されているレコードが、前記サンプル特性に関係付けられている、要求される数のレコード出現リスト中に現れる場合、前記サンプルとの可能性ある一致であるとして、前記所定の記憶されているレコードを識別することを含む方法。

【請求項 2】

前記複数の特性は、前記複数の記憶されているレコードから抽出される前記特性空間内のすべての特性を規定する、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記複数の特性は、あるサンプルレコードによって表示することができる前記特性空間内のすべての可能性ある特性を規定する、請求項 1 記載の方法。

【請求項 4】

前記サンプルレコードに演算を適用して、1 つ以上のサンプル出力を生成することと、前記サンプル出力を使用して、ルックアップテーブルをアドレス指定することを含み、前記ルックアップテーブル中のそれぞれの行はレコード出現リストをポイントする、請求項 1 記載の方法。

【請求項 5】

複数の規定された近接性を確立することと、それぞれの特性と近接性との組み合わせに

対して、独立したレコード出現リストを維持することを含む、請求項 1 記載の方法。

【請求項 6】

前記識別ステップは、複数の並列プロセッサの間で分けられ、それぞれが関係付けの結果をコンソリデータに送り、前記コンソリデータは、前記関係付けの結果に依存して、可能性ある一致として、記憶されているレコードを識別する、請求項 1 記載の方法。

【請求項 7】

特性空間内の複数の特性を使用して、サンプルレコードと、複数の記憶されているレコードとの間の可能性ある一致を識別するシステムにおいて、

(a) それぞれの一意的な特性に対して、関係付けられているレコード出現リストであって、前記特性と、前記特性空間内の前記特性に対する規定された近接性内の特性とが抽出されている、記憶されているレコードを識別する前記レコード出現リストと、

(b) 前記サンプルレコードからサンプル特性を抽出するプロセッサと、

(c) 所定の記憶されているレコードが、前記サンプル特性に関係付けられている、要求される数のレコード出現リスト中に現れる場合、前記サンプルとの可能性ある一致であるとして、前記所定の記憶されているレコードを識別するプロセッサとを具備するシステム。

【請求項 8】

前記抽出するプロセッサと、前記識別するプロセッサとは、共通のプロセッサからなる、請求項 7 記載のシステム。

【請求項 9】

前記抽出するプロセッサは、前記識別するプロセッサから離れている、請求項 7 記載のシステム。

【請求項 10】

前記抽出するプロセッサは、複数の並列プロセッサを備え、それぞれが関係付けの結果をコンソリデータに送り、前記コンソリデータは、前記関係付けられた結果に依存して、可能性ある一致として、記憶されているレコードを識別する、請求項 7 記載のシステム。